

はじめに

加古川市は瀬戸内海の播磨灘に面し、県下最大の河川である加古川をはじめ多くの河川、水路、ため池などの水辺空間に恵まれています。また、市の北部には、県立自然公園に指定された山々が連なり、豊かな自然と都市が調和したまちとして発展してきました。

私たちは、この豊かな自然を次の世代に継承するため、そして人と自然が共生できる社会を実現するため「ひと・まち・自然を大切にし、ともにはぐくむまちづくり」を基本理念として、将来の都市像に「いつまでも住み続けたいウェルネス都市 加古川」を掲げた加古川市総合基本計画を定め、「うるおいのある環境の中で暮らせるまちをめざして」取り組んでいます。

本年は、新型コロナウイルス感染症が地球規模で蔓延するという危機的な事態となり、感染拡大防止のため、様々な経済活動が自粛を余儀なくされました。今後は、日常生活において「新しい生活様式」を実践しながら、環境負荷のさらなる低減や地球温暖化に伴う気候変動への適応を進めていく必要があります。また、2015年に国連が採択した、国際社会全体の2030年度に向けた目標「SDGs」の実現に向けた取組も非常に重要となっています。

そのような中、本市におきましては、「自然と共生し、だれもが健康でいきいきと暮らすまち加古川」の実現を目指すとともに、持続可能な脱炭素社会の構築に向け、「第3次加古川市環境基本計画」の策定に向けた審議を進めているところです。

また、令和4年度からの二市二町（加古川市、高砂市、稲美町、播磨町）による広域ごみ処理化の実施に向けて、本市の燃やすごみ焼却処理量のさらなる削減に必要な施策について、引き続き積極的に取り組んでまいります。

本書は、令和元年度の環境保全に対する取組状況と、ごみ処理・し尿処理事業の現況をまとめたものです。皆様方には、本市の環境問題についてご理解を深めていただき、今後より一層のご指導を賜りますようお願いいたします。

令和2年9月

加古川市長 岡田 康裕